

ほっぴく 平泉寺こぼれ話

～第10話～

平泉寺と一乗谷（その9）

「平泉寺炎上悲話」

『朝倉始末記』は、一向一揆によって炎上する平泉寺の悲話をいくつか伝えています。

今年83歳になる老僧は、今回の戦いで二人の弟を亡くし、「長生きしたため、このような苦難にあった。あの世では極楽往生ができよう」といって燃えさかる炎の中に身を投じました。

また、当時、平泉寺には波多野千能丸という容姿端麗で、みんなから注目を集める16歳の青年がいました。今回の戦いでは山深くに隠れていましたが、運悪く山男に見つかってしまい、奴隷のような扱いを受けました。逃げたくても雲さえ見えない深い谷間で、泣き泣き日々をおくる哀れな様子を伝えています。

《次号へ続く…》

世界遺産へ向けて

「勝山市世界遺産フォーラム2009」

白川郷は、家屋の数が少なくなったとはいえ、山間地であるため独特の文化が生まれ、今まで続いています。日本の世界遺産の中ではたいへんめずらしく、人が世界遺産に実際に住むというものです。また、合掌造りの建物はほとんどが個人のもので、公共物がすくないことにも特徴があります。

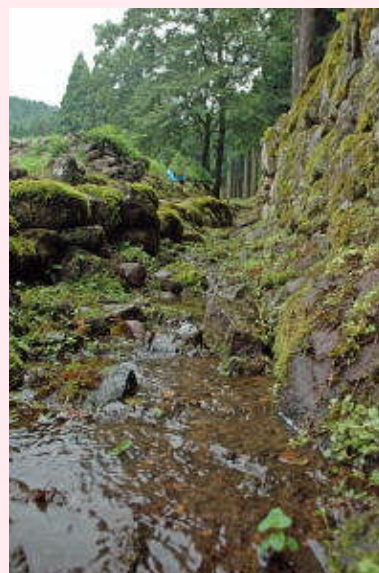
次は、和歌山県世界遺産センターの辻林浩さんに「紀伊山地の霊場と参詣道」をご紹介いただきました。この世界遺産は、吉野大峯・熊野三山・高野山の3つの霊場と熊野参詣道・高野山町石道・大峯奥駈道の3つの参詣道が主な資産です。紀伊半島の山岳地帯にあるため大規模な開発から守られてきました。古くから神のいる場所ととられ、仏教伝来後は、観音菩薩などの浄土と考えられて多くの人びとが訪れました。日本の宗教・文化の発展と交流に大きな影響を及ぼしました。《次号へ続く…》

発掘現場通信・ミニ

夏になると…♪♪一発掘調査始動へ！一

7月に入って発掘調査を本格的にはじめようと準備を進めていましたが、梅雨空のため思うようにできませんでした。そんなとき、ふと発掘現場に立ち寄ると、石畳道に沿った溝には、水がさらさらと音を立てて流れていました。天に向かってまっすぐに伸びる杉の木立とともに、じめじめとした空気を一気に涼しげにしてくれます。

次号より、始動した発掘調査をお伝えします。



国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No.10 (2009年7月号)

【発行】
勝山市教育委員会史蹟整備課
【発行日】
平成21年7月23日
【ご意見・ご要望は下記まで】
電話:0779-88-8113(直通)
メール:shiseki@city.katsuyama.fukui.jp

平成3年の発掘調査で見つかった石垣。人の顔よりもかなり大きな山石を使って、豪快に積み上げています。荒々しさの中に、石の形を緻密に観察し、くずれないように気を配る技術力が見えてきます。

今号の内容

特集「石づくりの都市」平泉寺

連載

◎世界遺産へ向けて
◎平泉寺こぼれ話～第10話～

平らな土地を たくさんつくるために…



中世の平泉寺は、「石づくりの都市」だといえます。平泉寺はゆるやかな傾斜地にあるため、人びとがくらししていくためには、土地を造成する必要があります。そこで、山をけずって谷をうめ、ひな壇のようにたくさんの平らな土地をつくっていきました。ところがそのままでは、雨や雪によって、すぐにくずれていくことはまちがいありません。そこで平泉寺では、造成した時に出てきた石をつかって石を積み、土がくずれるのをふせいだのです。

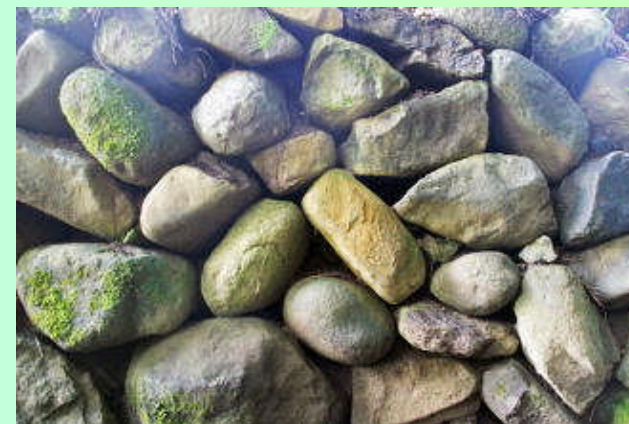
↑
石垣に囲まれた坊院(＝お坊さんの屋敷)。平成18年度調査地を北東側から写した写真です。

→
平成16年～18年度に3か所の坊院跡を調査しました。平らに造成された屋敷地が、ひな壇のように続いていきます。杉林の中にも多くの坊院跡が残っています。写真右側にある「発掘石畳道」は平成3年に調査されたものです。西側から写した写真です。



中世平泉寺の 石垣は どれでしょう？

とつぜんですが、クイズです。下の写真のうち、中世平泉寺の石垣はどちらだと思われますか。両方とも発掘現場にある石垣です。石垣の積み方をよく見て考えてくださいね(★こたえはこのページの下です★)。



①石をななめにして積んでいるなあ～。



②石を平にして積んでいるよ…。



もともと田んぼだった場所を調査しています。田んぼの中に石垣がありそうなので、その手前を掘り下げていきます。すると…



高さ1.5mの石垣と石畳道が出てきました。田んぼの下にうもれていたのにはおどろきです。平成16年度調査地。



を取り外すと、すぐ後に中世平泉寺の石垣がのこっている場合があります(左の写真 平成17年度調査地)。現在の石垣によって、中世の石垣が守られてきた幸運な石垣ですね。

上のクイズの正解は②です。①は、江戸時代より新しいもので、田んぼの斜面がくずれないように積んだものです。

中世平泉寺の石垣は、石をわったりけずったりすることはほとんどありません。ほぼ自然のままの石を使っています。よく形を観察し、石を選びながら積んでいたのでしょうか。

最近まで使われていた田んぼの石垣